様式２

はじめよう、つづけよう。
「新北海道スタイル」
～新型コロナウイルスに強い北海道をつくる～ 新北海道スタイル

随 時 記 者 発 表

項　　目	令和４年度（2022年度）第１回タンチョウ越冬分布調査の結果について			
区 分 等	発　　表	月　日　時　分	説明者	
	資料配布	１月５日15時00分		
配 布 資 料	令和４年度（2022年度）第１回タンチョウ越冬分布調査の結果について			

発 表 要 旨

【ポイント】
絶滅危惧種タンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的として毎年実施している本調査について、次のとおり今年度１回目の調査を実施しました。

１　調査実施日時等

	令和４年度(2022年度) 第１回	［参考］令和３年度(2021年度) 第１回
調 査 日 時	12月2日(金) 8:50～9:10	12月３日(金) 8:50～9:10
調 査 区 域	10振興局 46市町村	９振興局 41市町村
調 査 箇 所	計419箇所（野生416箇所）	計350箇所（野生347箇所）
調査協力者	小・中学生など計406人	小・中学生など計418人

２　タンチョウ確認羽数

令和４年度 (2022年度) 第１回	合計:972［成鳥:818、幼鳥：98、不明:17、飼育個体:39］ うち野生個体：933［釧路:668、十勝:198、根室:50、オホーツク:0、宗谷:2、日高:6、胆振:6、空知:3、石狩:0、後志:0］
令和３年度 (2021年度) 第１回	合計：937［成鳥:829、幼鳥:72、不明:0、飼育個体：36］ うち野生個体：901［釧路:724、十勝:135、根室:15、オホーツク:9、日高:10、胆振:3、空知:3、石狩:2］

３　今回の調査結果に対する有識者コメント概要
（有識者：正富 宏之 専修大学北海道短期大学名誉教授）
○　確認羽数について、前年度同期より 32 羽（野生個体）多い。
○　特に十勝・根室管内において、生息確認地区及び確認羽数が増加しており、釧路管内での給餌量削減などの影響の可能性も否定できない。
○　個体数増加に伴い分布域を広げつつあり、幅広く環境教育としての調査参加を呼びかけるべき。
※　今年度２回目の調査は、令和５年（2023 年）１月 24 日（火）に実施する予定です。

報道に当たってのお願い

第１回調査では、地元の小中学校の児童、生徒をはじめ多くの方々の御協力をいただいております。
なお、本調査は平成29年度から北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社（JAL）と協働で実施していますので、積極的な報道をお願いします。

担　　当

環境生活部自然環境局自然環境課
課長補佐 橋本（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ：011-204-5203 又は 代表：011-231-4111 内線24-352）
日高振興局 環境生活課　課　　長　中村　賢洋（直通0146-22-9250）
自然環境係長　瀧本　淳徳（直通0146-22-9254）
※ 各地域における個別の調査内容については、次の(総合)振興局環境生活課自然環境係までお問い合わせ願います。

区　分	電話番号	区　分	電話番号	区　分	電話番号
空知総合振興局	0126-20-0043	日高振興局	0146-22-9254	釧路総合振興局	0154-43-9154
石狩振興局	011-204-5824	宗谷総合振興局	0162-33-2922	根室振興局	0153-23-6823
後志総合振興局	0136-23-1354	ｵﾎｰﾂｸ総合振興局	0152-41-0630		
胆振総合振興局	0143-24-9577	十勝総合振興局	0155-26-9028		

［別添資料］

令和４年度（2022年度）第１回タンチョウ越冬分布調査の結果について

１　調査の趣旨

本調査は、絶滅危惧種のタンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的に、地元小・中学校や関係機関等のご協力のもと、調査の基礎的な手法やタンチョウ保護の歴史について学ぶことができるよう調査を進め、見られた場所、個体数を記録しました。

２　調査日時

令和４年（2022年）12月２日(金)　午前８時50分～９時10分

３　調査区域及び調査箇所

（1）調査区域　10(総合)振興局、46市町村管内のタンチョウ生息地及び飛来地全域
（2）調査箇所　合計419箇所

○調査地点所在市町村数の推移　（市町村）

振興局	令和４年度		令和３年度		令和２年度	
	第１回	第２回	第１回	第２回	第１回	第２回
釧　路	8		8	8	8	8
十　勝	15		11	12	11	7
根　室	4		4	3	4	3
オホーツク	4		5	3	5	4
宗　谷	4		4	－	3	－
日　高	2		2	3	2	3
胆　振	4		4	3	4	3
空　知	3		2	3	1	1
石　狩	1		1	－	3	1
後　志	1		－	－	－	－
合　計	46		41	35	41	30

○調査箇所数の推移　（箇所）

振興局	令和４年度		令和３年度		令和２年度	
	第１回	第２回	第１回	第２回	第１回	第２回
釧　路	187		203	182	192	173
十　勝	118		78	78	64	58
根　室	49		19	15	21	16
オホーツク	15		15	7	15	8
宗　谷	8		6	－	6	－
日　高	9		5	8	6	8
胆　振	21		13	8	14	9
空　知	9		8	8	2	2
石　狩	2		3	－	4	1
後　志	1		－	－	－	－
合　計	419		350	306	324	275

４　調査主体及び調査協力機関等

（1）調査主体
北海道（環境省委託）
（2）調査協力機関等
市町村、市町村教育委員会、釧路市動物園、小・中学校、日本航空株式会社、タンチョウ給餌人など

○調査協力者数

振興局	総計（人数）	内訳							
		小学校		中学校		（小計）		教職員	一般
		校数	児童数	校数	生徒数	校数	児童・生徒		
釧　路	302	10	42	7	83	17	125	54	123
十　勝	25								25
根　室	21								21
オホーツク	0								0
宗　谷	3								3
日　高	2								2
胆　振	9								9
空　知	37	1	30			1	30	5	2
石　狩	5								5
後　志	2	1	0			1	0	2	0
合　計	406	12	72	7	83	19	155	61	190

※本庁、振興局職員を除く。

5　タンチョウ確認羽数（振興局別）

（羽）

振興局	令和４年度第１回				令和４年度第２回
	成鳥	幼鳥	不明	計	
釧　路	577	74	17	668	
十　勝	182	16	0	198	
根　室	44	6	0	50	
オホーツク	0	0	0	0	
宗　谷	2	0	0	2	
日　高	5	1	0	6	
胆　振	6	0	0	6	
空　知	2	1	0	3	
石　狩	0	0	0	0	
後　志	0	0	0	0	
小　計	818	98	17	933	
飼育個体	34	5	0	39	
合　計	852	103	17	972	

＜過去２カ年実績＞　（羽）

振興局	令和３年度第１回				令和３年度第２回				令和２年度第１回				令和２年度第２回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧　路	666	58	0	724	1,265	80	37	1,382	693	110	61	864	1,240	129	23	1,392
十　勝	126	9	0	135	65	5	3	73	126	16	0	142	44	6	0	50
根　室	14	1	0	15	29	5	0	34	28	9	0	37	23	4	0	27
オホーツク	8	1	0	9	0	0	0	0	4	1	0	5	0	0	0	0
宗　谷	0	0	0	0	－	－	－	－	0	0	0	0	－	－	－	－
日　高	8	2	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	6
胆　振	3	0	0	3	0	0	0	0	6	2	0	8	2	1	0	3
空　知	2	1	0	3	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0
石　狩	2	0	0	2	－	－	－	－	0	0	0	0	0	0	0	0
後　志	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
小　計	829	72	0	901	1,359	90	40	1,489	859	139	61	1,059	1,314	141	23	1,478
飼育個体	35	1	0	36	35	1	0	36	36	2	0	38	36	2	0	38
合　計	864	73	0	937	1,394	91	40	1,525	895	141	61	1,097	1,350	143	23	1,516

※「－」は調査を実施しなかったもの。「0」は調査を実施したが確認できなかったもの。

※各年度の確認羽数の推移については別添グラフ参照。

6　調査当日の気象状況

○令和４年度第１回調査（令和４年12月２日 午前９時）

振興局	天　候	気　温	風　向	風　速	備　考
釧　路	晴	-2.0 ℃	北西	5.5 m/s	釧路地方気象台
十　勝	晴	-2.2 ℃	西北西	3.4 m/s	帯広測候所
根　室	晴	-1.5 ℃	西北西	5.8 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-3.5 ℃	西北西	1.2 m/s	網走地方気象台
宗　谷	曇	-6.2 ℃	西北西	3.0 m/s	稚内地方気象台
日　高	晴	-4.0 ℃	北	2.2 m/s	室蘭地方気象台
胆　振	晴	-3.6 ℃	北北西	3.6 m/s	室蘭地方気象台
空　知	晴	-3.9 ℃	南	2.5 m/s	札幌管区気象台
石　狩	晴	-4.6 ℃	南南東	0.7 m/s	札幌管区気象台
後　志	晴	-3.8 ℃	西南西	5.2 m/s	札幌管区気象台

※＜参考＞令和３年度第１回調査（令和３年12月３日 午前９時）

振興局	天　候	気　温	風　向	風　速	備　考
釧　路	曇	9.9 ℃	南南西	12.8 m/s	釧路地方気象台
十　勝	みぞれ	1.3 ℃	西北西	1.3 m/s	帯広測候所
根　室	晴	9.2 ℃	南	13.3 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	8.2 ℃	南南西	7.5 m/s	網走地方気象台
宗　谷	雨	3.1 ℃	北北西	1.5 m/s	稚内地方気象台
日　高	雨	8.8 ℃	南	8.2 m/s	室蘭地方気象台
胆　振	曇	9.1 ℃	南	7.6 m/s	室蘭地方気象台
空　知	雨	5.8 ℃	南南東	3.1 m/s	札幌管区気象台
石　狩	雨	7.7 ℃	南	9.8 m/s	札幌管区気象台

※＜参考＞令和２年度第１回調査（令和２年12月４日 午前９時）

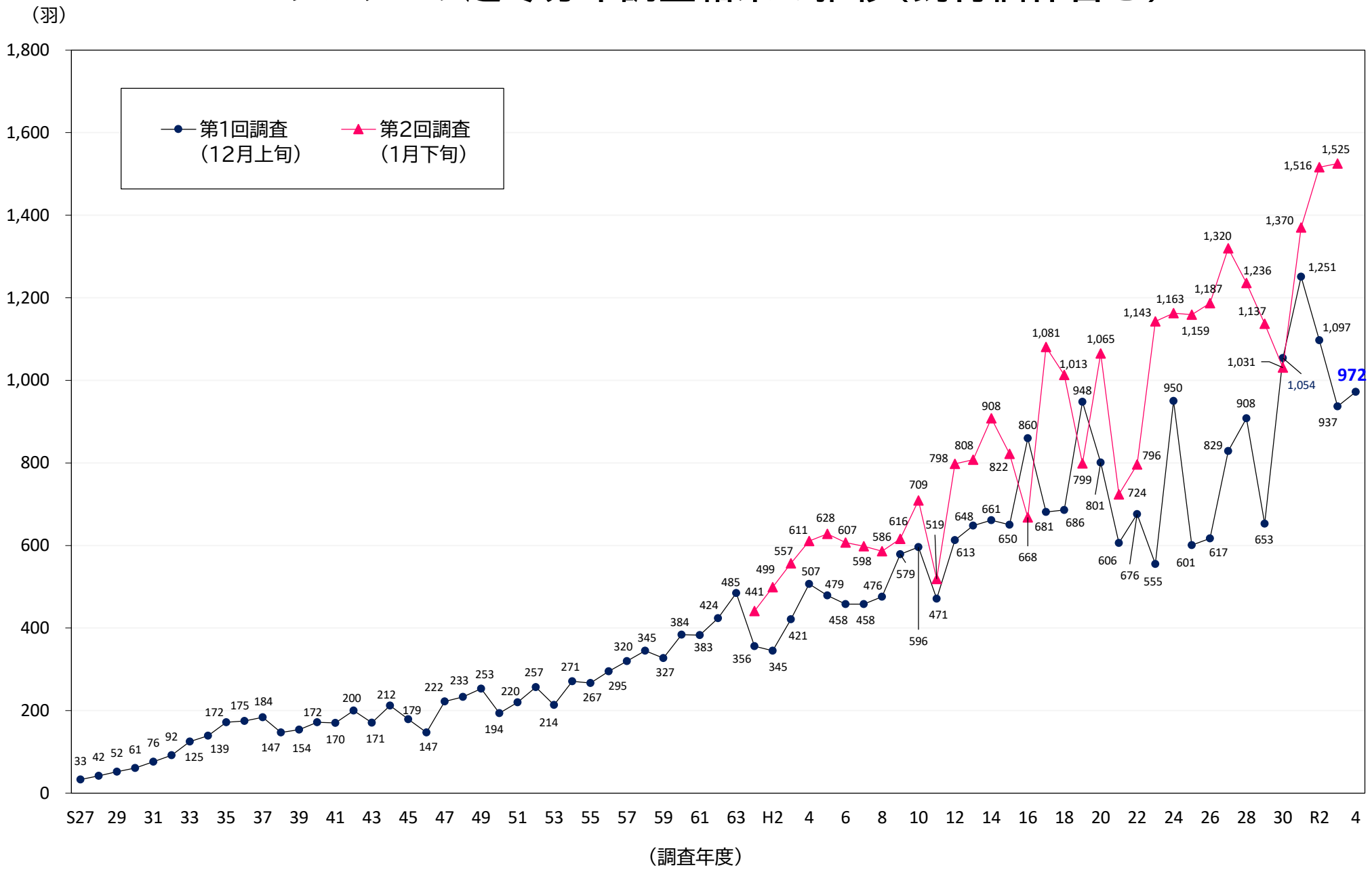
振興局	天　候	気　温	風　向	風　速	備　考
釧　路	晴	-2.3 ℃	北東	2.1 m/s	釧路地方気象台
十　勝	晴	0.6 ℃	東	1.5 m/s	帯広測候所
根　室	晴	0.0 ℃	西北西	6.2 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-3.1 ℃	南西	2.4 m/s	網走地方気象台
宗　谷	雪	-2.9 ℃	西北西	3.1 m/s	稚内地方気象台
日　高	晴	-0.6 ℃	北	1.9 m/s	室蘭地方気象台
胆　振	晴	-0.6 ℃	北西	1.8 m/s	室蘭地方気象台
空　知	晴	-1.2 ℃	南	1.4 m/s	札幌管区気象台
石　狩	晴	-1.8 ℃	南西	0.9 m/s	札幌管区気象台

7 タンチョウ確認羽数（市町村別）

（羽）

市町村		令和4年度第1回				令和4年度第2回
		成鳥	幼鳥	不明	計	
釧路	釧路市	31	11	0	42	
	釧路市阿寒町	22	5	0	27	
	釧路市音別町	51	5	5	61	
	釧路町	5	2	0	7	
	厚岸町	4	1	0	5	
	浜中町	49	5	0	54	
	弟子屈町	24	4	0	28	
	標茶町	138	11	1	150	
	鶴居村	242	27	11	280	
	白糠町	11	3	0	14	
十勝	帯広市	2	1	0	3	
	中札内村	0	0	0	0	
	更別村	0	0	0	0	
	大樹町	85	5	0	90	
	広尾町	4	0	0	4	
	幕別町	51	3	0	54	
	池田町	6	2	0	8	
	豊頃町	26	3	0	29	
	浦幌町	4	1	0	5	
	音更町	4	1	0	5	
	上士幌町	0	0	0	0	
	足寄町	0	0	0	0	
	陸別町	0	0	0	0	
	本別町	0	0	0	0	
	鹿追町	0	0	0	0	
根室	根室市	8	0	0	8	
	別海町	17	1	0	18	
	標津町	2	2	0	4	
	中標津町	17	3	0	20	
オホーツク	網走市	0	0	0	0	
	小清水町	0	0	0	0	
	斜里町	0	0	0	0	
	大空町	0	0	0	0	
宗谷	豊富町	2	0	0	2	
	浜頓別町	0	0	0	0	
	枝幸町	0	0	0	0	
	幌延町	0	0	0	0	
日高	日高町	5	1	0	6	
	新冠町	0	0	0	0	
胆振	むかわ町	2	0	0	2	
	厚真町	2	0	0	2	
	安平町	0	0	0	0	
	苫小牧市	2	0	0	2	
空知	長沼町	2	1	0	3	
	栗山町	0	0	0	0	
	由仁町	0	0	0	0	
石狩	千歳市	0	0	0	0	
後志	小樽市	0	0	0	0	
小 計		818	98	17	933	
飼育個体		34	5	0	39	
合 計		852	103	17	972	

タンチョウ越冬分布調査結果の推移（飼育個体含む）



令和4年（2022年）12月26日

令和4年12月2日実施のタンチョウ越冬分布調査結果について

正富宏之

今年12月2日に行われた令和4年度第1回タンチョウ越冬分布調査結果について、これまでと同様に、動物園および類似施設の飼育個体を除いた野生個体のみを対象として、コメントを記しておきたい。

Ⅰ. 分布域

A) 今年の状況

調査が行われたのは空知振興局 (以下振興局を省略)、石狩、後志、胆振、日高、宗谷、オホーツク、十勝、釧路、根室の10管内で、前年より1局（後志）多い。このうちタンチョウが目撃されたのは、後志、石狩、オホーツクを除く7管内である。

調査を行った市町村は7(5)市（以下カッコ内は前年の数値・記載）、36(35)町、3(1)村の計46(41)自治体で、そこに416(347)ヵ所の調査地区を設け、そのうち184(141)地区でタンチョウが目撃された。従って、調査地区の中でタンチョウが記録された地区の割合は44.2%を示し、4(4)市、21(24)町、1(1)村の計26(29)自治体で目撃され、調査対象自治体の56.5（70.7)%で生息が確認されたことになる。

確認地区数が最も多かったのは釧路管内の104（89)ヵ所で、全確認地区数の56.5(63.1)%を示し、次いで十勝54(37)ヵ所で29.3(26.2)%、根室19(5)ヵ所で10.3(3.5)%の順で、この3者で全体の96.2(92.9)%を占めた。

また、市町村別の確認地区数は鶴居村が最も多い35（38)地区で、全確認地区数の19.0（27.0)%を占めた。次いで釧路市が29(24)地区で15.8(17.0)%を示し、釧路の標茶町が 19(10)地区で10.3(7.1)%、十勝管内の幕別町が18(7)地区で12.8(5.0)%、大樹町が15(9)地区で8.2(6.4)%、豊頃町が12(7)地区で6.5(5.0)%などとなる。

B) 前年（令和3年）との比較と今年の特色

タンチョウの生息が確認された振興局数は昨年が8局であったの対し、今年は石狩管内の記録が調査日に得られなかったため、一昨年と同じ7局に留まった。しかし、目撃記録が無いとされた管内で、複数個体が調査日に明らかに生息していた地域が、調査対象地外とされていた例もあり、実質は前年同様8局での生息があったとみてよい。

今年の分布域に関する特色の一つは、確認地区数が前年を43ヵ所も上回り、調査地区数に対する割合も3.6ポイント高い値を示した点である。特に十勝管内で上述のように17地区、根室管内で14地区の増加を示した。しかし、これは前年から今年にかけて分布域が両管内で急拡大したことを示すものではない。つまり、この両地区では、少数で分散して暮らす個体が近年次第に多くなり、従来の調査対象地だけでは拾いきれず、精度改善のため今年は十勝管内40地区、根室管内30地区を新たに対象地としたことと関連する。

反面、釧路管内では調査地区数が前年より16ヵ所減少したのに、確認地区数

は前年を15ヵ所上回った。これは年ごとに環境条件（餌の分布、人の干渉、気候など）は異なり、それによりタンチョウの生息場所が変わるので、前年は既存の調査地区での記録が極端に少なかったためと考えられ、こうした状況については、羽数の項で少し触れたい。

ともあれ、十勝・根室両管内での調査地区数増大に伴う確認地区数増加により、相対的に釧路における確認地区数の割合は低下したものの、直近5(2018-2022)年間の確認地区数では2020年に次いで2番目を示し、大きな増減はない。また、全道における最近4(2018-2021)年間の確認地区数は141-150ヵ所なのに対し、今年は30ヵ所以上も多いが、これも十勝・根室両地区での調査地区数変更に伴うことが大きいと言える。従って、調査時点の振興局レベルにおける分布は、十勝・根室管内での緩やかな増加と、特に2015年以降の宗谷・胆振・石狩・空知・日高・オホーツク管内等での新たな増加に注目しておくべきことを示唆している。

Ⅱ. 羽数

A) 今回の記録羽数

目撃された羽数は933(901)羽(以下カッコ内は前年の数値)で,そのうち今年生まれの幼鳥が98（72）羽とされる。しかし、総数の中には成鳥・幼鳥不明の個体が17羽含まれるため、実際の幼鳥数は98羽を若干上回るかもしれない。

管内別の羽数は配布資料の如くで、各管内の羽数割合は多い順に、釧路71.6(80.4)％、十勝21.2(15.0)％、根室5.4(1.7)％、日高0.6(1.1)％、胆振0.6(0.3)％、空知0.3(0.3)％、宗谷0.2(0.0)％となり、釧路・十勝・根室の3管内で全体の98.2(97.1)％を占める。

調査を行った46市町村別に、目撃された羽数を多い順に11位まで挙げると、鶴居村280(320)羽、標茶町150(118)羽、釧路市130(214)(このうち阿寒町27(82)羽、音別町61(86)羽)、大樹町90(67)羽、幕別町54(14)羽、浜中町54(24)羽、豊頃町29(19)羽、弟子屈町28(7)羽、中標津町20(6)羽、別海町18(6)羽、白糠町14(15)羽となっている。

上記の羽数を自治体別の分布割合で示すと、鶴居村が 30.0(35.5)%、次いで標茶町 16.1(13.1)%、釧路市が 13.9(23.8)%で、11 位までの合計数が目撃数全体の 92.9(95.4)%を含むことになる。また、11 位までの自治体で記録された羽数を振興局別に集計すると、釧路管内が 6 自治体 656(722)羽で 70.3(80.1)%が、十勝管内が 3 自治体 173(119)羽で 18.5(13.2)%、根室管内が 2 自治体 38(12)羽で 4.1(1.3)%となる。

なお、今年は 98 羽の幼鳥が確認され、総数(成鳥・幼鳥不明数を除く)に対する割合は 10.7%を示した。振興局別では、釧路が 74 羽で管内記録数(成鳥・幼鳥不明数を除く)の 11.4%、十勝が 16 羽で 8.1%。根室が 6 羽で 12.0%、その他が 2 羽で 11.8%となる。市町村の総目撃羽数の多い順に幼鳥数の占める割合(対象自治体の成鳥・幼鳥不明数は除く)を挙げると、鶴居村が幼鳥 27 羽で村内記録数の 10.0%を示し、次いで標茶町 11 羽で 7.4%、釧路市 21 羽で 16.8%、大樹町 5 羽で 5.6%、浜中町 5 羽で 9.3%、幕別町 3 羽で 5.6%、豊頃町 3 羽で 10.3%、弟子屈町 4 羽で 14.3%、中標津町 3 羽で 15.0%、別海町 1 羽で 5.6%、白糠町 3 羽で 21.4%などである。

B) 前年との比較を含めた今回の特徴

今回の調査で目撃されたタンチョウは933羽で、前年より32羽多いが、過去

最多を記録した2019年よりは282羽少ない。

振興局別に確認羽数を前年と比べると、釧路で56羽少ないのに対し、十勝では63羽、根室では35羽多く記録されたのが特色である。前年に十勝・根室の両管内で記録された羽数に対し、今年は十勝で約1.5倍とかなりの割合で増え、2018年に記録された196羽を超えて過去最多を記録し、根室は2018年の過去最多に1羽届かなかったものの、前年比では3.3倍と大幅な増加を示した。

両地区の確認羽数増加要因の一つは、上記(**I-B**項参照)でも触れたように、調査地区数を増やしたことにある。この第1回調査では、その年の生息環境の状況に応じてタンチョウは暮らしの場を選択するため、記録数は大きく左右される。つまり、調査日ころに温暖で、残存作物も含めて餌が十分とれるなら広く分散して暮らし、寒さが進み降雪などもあれば、餌のある給餌場を目指すなど、年によりタンチョウが越冬地へ移動する時期に“ずれ”が起き、それが12月の確認羽数に影響する。今年の調査時は各地マイナス気温であったものの、昨年や一昨年に比べて調査直前の11月下旬まで気温が高く（例えば、十勝の大樹町や根室の中標津町では、日平均気温が前年・前々年より2-4℃ほども高い）、そのためタンチョウがまだ広く分散して暮らしていたため、全体を十分把握し得なかったことが、実際の生息数より確認数が大きく下回った一因と思われる。

他方、釧路管内で総確認羽数は前年を下回っており、十勝・根室両地区の増加に伴う釧路地区での減少という可能性もないとは言えないが、十勝・根室両地区の増加は既存生息個体を新たに見つけたことが大きいと思われる。従って、釧路管内にある三大給餌場（阿寒・下雪裡・中雪裡）での給餌量削減などによる集中抑制の影響で、調査地区以外での存在が多くなっている可能性も否定できない。従って、釧路管内でも調査区数の増加とともに、多数個体の多い地域であることを考慮して、調査協力者数を増やすことも必要であろう。ともあれ、調査時点においても釧路管内にタンチョウが集中している点は、これまでと同様に変わりはない。

なお、今年の繁殖状況を示す幼鳥割合は、今回の調査では全体の1割前後の値を示し、今のところ通常の状態と想定される。しかし、今回の総確認羽数が、推定されている現在の個体数の半数ほどに留まるため、より確実な繁殖状況は、第2回の調査結果をもとに判定されることになる。

Ⅲ. 提言

A) 調査地区数の増加

今年は特に十勝と根室の両管内において、調査地区数を大幅に増やすことにより、生息確認地区数並びに確認羽数増加が認められ、分布の実態により近い結果が得られたことに対し、計画作成・実行された道の担当職員の方々にまず謝意を表したい。また、調査地区数が大幅に増えたにも拘らず、調査協力員の数は従来と変わりないので、実際に調査にあたられた方々の労を多としたい。

しかしながら、目撃羽数が実態よりもかなり低いことを考えると、調査方法は改善の余地があると思われる。今年の様に分散個体が多いと思われる年にタンチョウをなるべくもれなく見つけるには、調査地点を可能な限り多く設定する必要があり、それが分布状態と羽数の確認の両面で極めて有効と言える。

そのため、十勝・根室のみならず、タンチョウの生息が想定される全ての振興局で調査地区数をさらに増やし、それに見合う調査協力者を確保するのが最も単純な方法であるが、容易に事は運ばないかもしれない。とすると、それを

補う手法として、タンチョウが調査時期に連続して出現する場所について、個人ないし機構・組合・団体等を通じて事前に情報を集める工夫とか、その他の様々な情報収集方法の検討も必要であろう。

ただ、次回からの調査方法の再検討が不可欠と思われる個所もある。即ち、道東の管内で調査日の調査協力者がゼロで、事前の情報収集も不十分であったためか、調査対象地区から除外され、結果としてタンチョウの生息記録が欠落したと思われる事例がある。同管内には野鳥やタンチョウについて情報をお持ちの方も多くおられるゆえに、早急な改善を望んでおきたい。

B) 環境教育としての事業参加

これについては、繰り返し提言してきたことであるが、再度記しておきたい。つまり、タンチョウは個体数増加に伴い分布域を広げつつあり、単に釧路市の阿寒町や鶴居村だけが、調査参加可能な地域なのではない。各地域における学校・教育機関・関係者が郷土の自然理解のための手がかりとして、調査参加を有効利用していただきたい。また、今回の調査結果を報道されるメディアの方にも、単に羽数や分布のことのみならず、この調査の環境教育的意義のあることを、少しでも理解していただけるような報道をお願いしたい。